

KSTNET WEB版 2005年5月号

1.1 77名の言語聴覚士のパワーが熊本に!

熊本県言語聴覚士会 会長 小菌真知子

5月7日に行われた本年度熊本県言語聴覚士会総会にて再任され、2期目の会長を務めることになりました。微力ながら言語聴覚士の資質向上と職域拡大につとめ、言語聴覚障害を持つ方々のお役に立てるよう努力してまいりますので、会員一人ひとりのご協力をよろしくお願い申し上げます。

1期目の2年間は、組織としての体制作りと他職種との連携の構築であつという間に過ぎていきました。理事やブロック長の方々には会の運営やブロック会などたいへんご協力いただき、活動もようやく軌道に乗ってきた感があります。

言語聴覚士の仕事を一般市民や他職種の方々に知っていただくための啓発活動としては、「市民健康フェスティバル」、「熊本失語症のつどい」、「シティFM」など、毎年の行事が定着してきており、会員の協力で着実に言語聴覚士の仕事を知る人々が増えているのを実感しています。会長としては、県および市の医療、保健、福祉に関係する職種の団体の会議の中の役割を果たし、意見を述べることで言語聴覚士の仕事をアピールするように努力しております。

来年度の介護保険の改革へ向けて、さらに言語障害対策に対する要望が出てくるものと思われます。また、熊本県の高次脳機能障害対策委員会においてもSTは重要な役割を担っており、言語機能障害のみではなく周辺の高次脳機能障害も十分に評価し対応する力をつける必要があります。このような社会の流れに対応すべく、学術研修部では、昨年度より学術研修会、研究発表会、新人研修会を開催し、会員の資質向上に努めてきました。

総会でも申しあげましたように、今年度の最大の懸案事項は、九州各県のSTが熊本に集まる「九州地区言語聴覚士合同学術集会」を成功させることです。11月12日（土）の開催へ向けて実行委員会が活動中ですが、大会開催には多くの会員の力が必要です。今後いろいろな形で、ご協力を呼びかけますのでよろしくお願い致します。

本年度の総会時点での会員数は、177名と発表されました。40名ほどで出発した言語聴覚士会会員数がここ数年で数倍になったのです。円滑な運営のためには、コミュニケーション障害を対象とする職業として自覚を持って、会からの呼びかけには速やかな反応をお願いします。また、資質向上委員会から県内の施設情報を提供していますので、会員の権利である情報網を有効に利用してください。

最後に、昨年度から繰り返し呼びかけていますが、言語聴覚士のパワーをさらに高めるために、日本言語聴覚士協会に入会しましょう。国家資格ができてまだ10年も経たない発展途上の言語聴覚士です。日本中のSTが手をつなぐことでより力強い職能団体となり、言語聴覚障害を持つ方々のQOLの向上につながる支援ができます。新人のSTたちが言語聴覚士になってよかったと思えるような、また、言語障害を持つ方々に頼りにしていただけるような熊本県言語聴覚士会を作り上げていきたいと思っておりますのでよろしくお願い致します。

2. 第7回 熊本言語聴覚士会 総会報告

県士会事務局

去る5月7日（土）、今年も熊本交通センターホテルで総会が開催されました。たくさんの議案が提出され、今年度の活動方針等が無事決定しました。皆様のご協力に感謝申し上げます。

参加者：96名（委任状69名）

県士会会員数：177名（参加者・委任状が過半数を超え、本総会は開催されました。）

[決定・承諾事項]

1. 平成16年度活動報告・決算に関する件

議案書に記載されている活動報告については各自確認をとり、決算報告は監査の結果、相違ないことが承認されました。

2. 役員選出選挙結果報告・新役員、新組織報告

今年度より、各ブロック別の部長に引き続き、新に副部長がおかれることになりました。また、組織図の通り、各小委員会が再編、統合されました。

□訂正事項

・選挙管理委員会より、選挙結果公示文書に森田朋子氏（県福祉総合相談所）の氏名の記載もれに対し、訂正お詫びがありました。

・議案書に記載されている学術研修部委員の山田真由美氏（青磁野リハビリテーション病院）の削除のお願いがありました。

3. 会則・選挙細則改正

<会則改正事項>

第8条「(4) 理事10～15名程度」から『(4) 理事20名程度（会長・副会長・事務局長を含む）』に改正、承認されました。

<選挙細則改正事項>

第9条「総会において出席者の直接無記名投票により行なう」から『選挙は会員の投票により行なう』に改正、承認されました。

4. 平成17年度活動方針案・予算案に関する件

議案書に記載されている活動方針案・予算案に関する件通り承認されました。

□連絡事項

・11月の九州地区合同学術集会について

今月末より演題募集、案内を文書にて発送予定（熊本県開催のため多数出席するようにとのことでした。）

・12月の介護フォーラムについて

全国のPT・OT・STが参加する会が今年は熊本で開催予定となっており、PT協会が担当、OT・ST協会が協力をするという形になりました。

関連して、介護保険審査委員会に4月より小藺真知子氏(熊本機能病院)が参加しており、介護認定など今後文書を使って報告するということでした。

・本年度より熊本市民健康フェスティバル企画・運営事業が事務局の業務から事業部へ移りました。

・山口信氏（青照館）より、各ブロックでの勉強会参加の呼びかけがありました。

・広報部より

広報誌カスタネットの発行月が5・8・11・2月で記載希望の情報受付締切として、発行される前の月の最終日までに濱下かおり氏へメールにて連絡をして下さい。ホームページに関して掲載希望の情報は山口信氏（青照館）に連絡をして下さい。

・財務部三浦氏（熊本機能病院）より、総会に出席されていない方への会費振込みの連絡のお願いがありました。

5. その他

・施設一覧から、介護老人保健施設ケアビレッジ箱根崎を削除するようお願いがありました。

3.介護保険法改正に関する最新情報

文責 小園真知子

5月13日に行われました熊本訪問リハビリテーション研究会で得た情報をお知らせします。この時点で衆議院は既に通過し、参議院で審議中であり、STの介護保険参入もほぼ確実であろうということでした。

新予防給付に関する項目は、『運動機能の向上』『栄養改善』『口腔機能の向上』が三本柱です。最近NST(栄養サポートチーム)を立ち上げている病院も増えてきていると思いますが、この2、3番目の部分にSTの関与が求められています。

来年度の準備に向けてSTにも相談が来ています。今後会員の皆さんも、介護保険に関する情報について新聞等で注意してご覧下さい。今後も情報がありましたら、随時お知らせします。

I. 改正の概要(一部抜粋)

厚生労働省老健局

1. 予防重視型システムへの転換
 - (1) 新予防給付の創設
 - (2) 地域支援事業の創設
2. 施設給付の見直し
 - (1) 居住費・食費の見直し
 - (2) 低所得者に対する配慮
3. 新たなサービス体系の確立
 - (1) 地域密着型サービスの創設
 - (2) 地域包括支援センターの創設
 - (3) 居住系サービスの充実
4. サービスの質の確保・向上
 - (1) 情報開示の標準化
 - (2) 事業者規制の見直し
 - (3) 市町村の保険者権限の強化
5. 負担のあり方・制度運営の見直し

- (1) 第1号保険料の見直し
- (2) 要介護認定の見直し
- (3) 市町村の保険者機能の強化

6. 被保険者・受給者の範囲

社会保障に関する制度全体についての一体的な見直しと合わせて検討を行う

7. 痴呆の名称を『認知症へ』変更

II. 施行期日 平成18年4月1日

4.各ブロック報告

[中部]

<中央ブロック会> 平成17年3月18日 西日本病院

西日本病院のスタッフの皆さんより、①施設紹介、②症例検討「誤嚥性肺炎を呈した症例に対するチームアプローチ」という題で検討をしました。施設基準Iを取得する為に必要なST室の設置で悩むことも多いと思います。①施設紹介では、病院の数少ない部屋の中で創意工夫を凝らしST室の環境を整えられ、参考にしたい点が多くありました。②症例検討では、嚥下訓練のチームアプローチを行うことでもたらされた患者の回復を目の当たりにする事で、その有意性・重要性を感じる事ができた。それぞれの病院でもチームアプローチを考え実行する事はあるが、それをやり続けることが難しいという現状を聞くことが多い。確実にかつ軽負担でチームアプローチのできる仕組みをSTは考える必要があることを感じた。

文責 中部ブロック会 ST下田 祐輝

[東部]

東部ブロック報告

東部ブロックでは役員改選を行い、新ブロック長：兼田洋美（熊本セントラル病院）、副ブロック長：花生健志（成仁病院）となりました。一年間頑張りますので、どうぞよろしくお願ひします。

今年は新規施設が「ケアセンター赤とんぼ」「菊陽台病院」と2施設、新入職者を迎えた所が4施設ありました。今後はお互いの親睦を深め、情報交換を行っていくために、定期的に勉強会を行って行く予定です。第1回は6月、担当は熊本リハビリテーション病院と熊本セントラル病院です。日にちは決定次第お知らせします。皆様どうぞ御参加下さい。

[西部]

西部ブロック第1回研究会報告

文責 山口 信

去る5月20日（金）、西部ブロック第1回研究会がニュー天草病院で開催されました。出席者は11名でした。

発表者は青照館の山口で、議題は「頸部聴診法による嚥下障害診断法」「摂食・嚥下リハビリテーションの流れ」の2つを用意していましたが、前者の議題に質問・意見・討議が極めて活発に行われたため、後者の議題に入れないうまま時間切れとなりました。

あらためて、嚥下に対するブロック会員の関心の深さを知った一日でした。私自身入職以来

一番悩んだのが嚙下でしたが、どの程度皆さんの関心に応えることができたでしょうか。更なる研鑽が必要だと感じました。

次回の私の発表ではもう一つの悩みの種である認知症について取り上げたいと思っています。

第2回の研究会は7月29日（金）にメディカルカレッジ青照館で実施の予定です。ブロック外の参加も歓迎します。

[南部]

南部ブロックからのお知らせ

第6回南部ブロック勉強会が下記の日程で開催されます。内容はくまもと温石病院での嚙下障害についての取り組み、施設見学等です。他のブロックの方々の参加も心よりお待ちしております。

日時：5月28日（土） 15時から17時まで

場所：くまもと温石病院

担当：くまもと温石病院 奥谷先生

南部ブロックに新しい仲間が増えましたのでご紹介致します。宜しくお願い致します。

緒方医院：山岡 友帆さん

水俣市立総合医療センター：大岩 由佳さん

ヘルシーパル十六：濱 華織莉さん

八代市医師会病院：徳永 奈美さん

球磨郡公立多良木病院：簗田 健二さん

にくまもと病院：鎌崎 佑佳さん

宇賀岳病院：平ノ上 隆康さん、高木 麻子さん

熊本労災病院：畠山 克隆さん

南部ブロック長：折口 直美（熊本労災病院）

[北部]

平成17年度第1回北部ブロック会のご案内

第1回北部ブロック会は、有明成仁病院にて、下記の要領で開催を予定しております。少し先の予定になりますが、皆様万障お繰り合わせの上ご参加下さい。

日時：平成17年6月18日（土）14：00～16：00

場所：有明成仁病院 リハビリテーションセンター OT室内容：(日)リハセンター紹介 (月)症例報告

5.平成17年度九州地区言語聴覚士研究会案(11月12日)

学術研修部長：小菌真知子

コンセプト：“言語聴覚士の資質向上と職域拡大”

いつでも、どこでも、どんな障害にも対応できるSTに!

【シンポジウム】

目的:言語聴覚士に対する社会の要請を知り、今後の資質向上、職域拡大に努める

① 社会的要請を知る

熊本市医療専門団体連合会、熊本県医療保健福祉協議会、熊本県・市の行政において言語聴覚士への認識が広まり、介護や福祉の分野においても我々の活動が求められている。教育の分野でも就学前や就学後の言語障害児に対する訓練の要望は高く、LDや吃音などを含め潜在的な言語聴覚療法対象者は多い。資格制度ができて8年目に入り、多くの養成機関から毎年新卒のSTが誕生している。これまで言語聴覚士の手の届かなかった人々、新しい分野にも積極的に関わることに要請されている。

② 職域拡大

高次脳機能障害：作業療法士、臨床心理士と重なる部分があり精神科や一部の病院では、心理職が高次脳機能障害の訓練を始めている。STは言語を含む高次脳機能障害の専門家としてのアピールをしていく必要がある。

地域リハ（訪問・老健・予防的リハ）：平成18年度より介護保険のST参入はほぼ決まっているので、今後の具体的な活動の方法を準備していく必要がある。

小児の言語障害：言語障害児の数に対して受け入れ施設の不足している現状で、小児の言語、認知機能の発達の評価、訓練の場を確保していく必要がある。

シンポジストの各立場から、STへの要望、提言をしていただき、今後、言語聴覚士会として取り組むこと、また、ST個人のレベルで実施すべきことは何かを明らかにする。

実施時間 90分：シンポジスト各20分 ディスカッション30分 座長：小菌真知子

シンポジスト

- * 言語障害児を持つ親の立場（言語障害児の親）
- * 地域リハビリ担当者の立場（熊本訪問リハ・セラピスト）
- * 介護予防に関して行政の立場（熊本県庁）

【特別講演】

熊本市民病院神経内科部長 橋本洋一郎先生

演題『脳梗塞と神経心理学』

6.新人研修会感想

今回の新人研修会では、現在何気なく行っている患者様とのフリートークなどに必要なコミュニケーション力を再確認することができました。実習では、10分間で何人の人と名刺交換ができるかということを行いました。実習では様々な人と話すことができましたが、実際の病院等の対外場面では実践できていないと感じました。今後、いろいろな場面で実践していきたいと思いました。また、今まで、お礼状を書いたことがありませんでした。しかし、今回の研修会で紹介元のSTの立場として現在の患者様の状態等を知ることができるという利点があり、お礼状の重要性を感じました。一年間、業務をこなすことでいっぱいだったため、考え直すいい機会になりました。

宇賀岳病院 言語聴覚士
田中聡子、川元真由美

